

令和3年度第2回定例会

日 時： 令和3年7月9日（金）午後2時30分から午後4時00分

場 所： 本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）委員4名
（事務局）図書館長、中央図書館整備担当課長、
企画運営担当主査、総務係長

会長 本日は3名の委員が欠席であるが、多摩市図書館協議会規則第4条により令和3年度多摩市図書館協議会第2回定例会を開催する。

事務局から配布資料の確認をお願いする。

配布資料確認。

会長 本日の議題に入る。議題1、図書館事業評価（自己評価）について、事前配布資料2-1に基づき、基本目標（1）（2）（3）について意見を交換する。その後、基本目標（4）（5）の中からどれを評価するか決める。前回の資料1-3を参考に進める。事務局に確認するが、基本目標（1）（2）（3）について意見交換し、それで終了なのか、今日出た意見及び欠席委員の方々からの意見を取りまとめて、確認できる機会を設けるのか。どういうやり方にするのか。

事務局 やり方としては、意見交換をし、評価がまとまるようならまとめていただきたい。または、意見交換した内容を事務局で取りまとめ、メール等で一度委員に見ていただき、次回、追加で確認をしたい。

会長 それでは、事前配布された資料について意見を出していただきたい。まず、事務局から、資料2-1について説明いただきたい。

事務局 資料は2-1である。こちらの資料、令和2年度多摩市立図書館事業評価【自己評価】に沿って、意見交換していただきたい。それぞれの取り組み項目ごとに実施結果ということで具体的な取り組み状況をまとめて示している。それに対して、図書館としての自己評価を書き込んだもので、事前に配布しているので特に説明はしないので、意見交換をしていただきたい。また、評価項目の設定もしていただきたい。

会長 基本目標（1）だれもが使える図書館は多文化サービスの充実の実施の結果と自己評価が出ている。この中でわからないことなど意見があれば、発言いただきたい。

事務局 机上に配布している資料であるが、図書館の自己評価の中に書いてある外国人の方へ向けて、国際交流センターの広報誌HAND IN HANDで図書館の利用案内をしているものである。もう1点は、多読に取り組んでいるということも自己評価に入れているが、英語の多読の本を集めているという中でレベルごとのパンフレットを作成している。こちらの

資料も活用してほしい。

会長 それでは委員のみなさんから意見をいただきたい。

委員 多読という言葉は知らなかったが、どのような経緯があるのか。

図書館長 多摩市立図書館ニュースという小学校 4 年生から 6 年生向けに配布をする予定で今回配布しているが、こちらの見開きの水色の左側のところに「多読コーナー」というのがある。図書館本館に「多読コーナー」を作った。簡単な英語の本をたくさん読むことで英語力が身に着く学習法ということで子どもも大人も英語に親しみたい方にお勧めということで作成した。目的としては、今までも多読の本というのは購入をしていたが、一般的な読み物として借りていただいたりしていたが、それをある程度まとめて配置し、レベルによって、語彙数が増えていくので、これをどんどん読んでいくと英語の力がついていくという学習方法があるので、それをこの機会にある程度購入して、コーナーを作って、周知をしていこうという目的で始めた。近隣だと稲城市でも取り組んでいるので、職員が見学に行ったりして、多摩市の図書館でもやってみようということになった。

委員 オックスフォードはイギリス、イギリスの母国語は英語と思って納得した。多読は **Extensive Reading** という意味でいいのか。

英語だけに限ったのが多読なのか、それとも日本語のための多読という使い方があるのか伺いたかった。私が調べたとき、**Extensive Reading** となっていて、文章を分析しないで大意を把握する読書法になっていて、**SSS (Start with Simple Stories)** の多読法は従来不可能ではないかと言われていた初級者でも楽しく始められ、楽しく続けられる多読法と書いてある。多読というのは、英語に限るのか、私が調べたのと少し違うと思ひ、聞いた。

図書館長 取り組みとしては、英語の本について集め、やり始めた。

委員 多読コーナーの可能性としては、日本語もありなのか。

会長 日本語を勉強するために英語の多読と同じようなものがあるかという質問だがいかがか。

図書館長 特に今はコーナーとして揃えていない。このコーナーとは別に日本語を学習するための本を揃えているところは別にある。

会長 英語と同じような意味での日本語の多読というのは聞いたことがない。

委員 多読とは簡単な英語の絵本をたくさん読むことという説明で正しいということか。

図書館長 現在の多摩市立図書館の取り組みとしては、そのとおりである。その内容でやっている。

- 会長 先ほど、委員が紹介いただいたものと同じか。
- 図書館長 内容を細かく理解したり、意味を調べたりすることなく、とにかくわからないことは飛ばして読んでいくというところで語学力をつけるというところではおそらく意図は同じである。
- 委員 わかりました。新しい工夫をされて多読コーナーというのを作り、しかも小学生の高学年に多摩市立図書館ニュースに載せ、配布するという取り組みはいいなと思った。
- 会長 図書館では当たり前の用語かもしれないが、宣伝する時には多読がなんなのかをきちんと伝えないといけない。
- 図書館長 多読コーナーにも簡単な説明の表示はしている。昨年度は資料を揃えて、PRするという段階で、今回、多摩市立図書館ニュースに掲載したが、このような形で利用してもらえるように啓発していくのは、今年度からやっていくことになる。
- 会長 1カ所に集めてしまったことによって、他の図書館で利用できないというマイナスの部分はこれからどのように対応していくのか。
- 図書館長 現在は、多摩市立図書館のホームページに多読の資料ということでテーマ資料ですぐに検索して貸出ができるように周知している。副本が欲しいとは思っているので、今年度から徐々に揃えて、他の館にも置いていきたいと考えている。
- 委員 多読コーナーできたなと思っていた。なんだろうな、英語の本がいっぱいあるなと思っていた。あまり自分には必要性がないような人にも入ったら、パッと目につくので、まだたくさんの人に周知はされていないのだろうが、ちょうど勉強したいという方には揃っていると目についていいと思った。
- 委員 小学生と保護者向けの多摩市立図書館ニュースはいつごろから始めたのか。
- 図書館長 毎年、夏休み前に夏休みに読む本のブックリスト「なつやすみこれよんで」と夏休みの子供向けイベントの案内を配布していた。小学生に対して、学校を通じて配布していたが、コロナ禍で夏休みのイベントが実施できるか不確定だったので、今年度から「多摩市立図書館ニュース」という形で発行を始めた。その内容として多摩市立図書館のトピックスなどと夏休みのブックリストを掲載し、年度に1回、夏休み前にこのような形で配布することにした。もともと配布していたチラシをこのようなニュースというかたちでしっかりと情報提供することにした。ブックリストが1年生から3年生、4年生から6年生と分かれているので、記事も別々に作った。これを学校を經由して直接、学校から家庭に持って帰ってもらうので、直接、子どもたちと保護者に見てもらえる。

- 委員 確かになつやすみこれよんでというのは、よく図書館でいただいた。今日午前中、学校図書館に行ったら、子どもの図書カードにこれが挟んであった。これは、前から出ていたのかなと思ったところだった。また、開いた時に多読コーナーと書いてあったので、そうかと思った。学校を通せば、学校図書館司書の方が図書の時間に配ったり、説明したりするだろうし、家庭でも見やすくていいと思う。今年から始めた、いい取り組みだと思う。
- 委員 中学生用もあるのか。
- 図書館長 夏休みのブックリストとイベントなどは、小学生向けが多いので、今まで小学生向けにしか出していない。今回も小学生向けに作っている。これとは別に多摩市教育委員会だよりというのがあり、それは教育委員会全体の活動について記載されており、それは小中学校に配布されている。その中に図書館の記事も時々掲載してお知らせしている。
- 委員 中学生にお勧めはしないのか。
- 図書館長 中学生用のブックリストは夏休み用としては、作っていない。
- 委員 中学生用に作っていないのはなぜか。
- 図書館長 学校図書館を子どもたちはメインで使っていると思うが、学校ではブックリストも作成されて、各中学校で配布していると思う。それを図書館からもということであれば検討していきたい。
- 委員 多摩市の国際交流センターの広報誌に図書館の利用方法がこのように出ているのかと思った。どのくらい浸透しているのかというと疑問だが、多摩市立図書館では多摩市に外国の方がどれくらいいるか把握しているか。そして、どこの国の方が多いかという数字を基に取り組んでいるのか。
- 図書館長 具体的な数値は今、用意していない。韓国語・中国語を使っている方々が多いというのがあるので、多読でもそうだが、英語が出てしまうが、本を購入する時には、英語や韓国語、中国語など、また、1月から導入した電子書籍では、利用が多い言語、韓国語や中国語のものも入れている。
- 会長 住民の構成に基づいて、韓国語と中国語の本を積極的に購入しているという理解でよいか。
- 図書館長 そのとおりだ。
- 企画運営担当主査 中国語と韓国語に関しては、文字の表記の問題がシステム上あり、多摩市のシステムでは目録の問題があったので、購入して来なかった。その表記の問題が、ハングルだとか中国語の表記も表示ができるようにシステムが更新されたので、一昨年くらいから、中国語と韓国語の絵本を買い始めた。まだ、冊数は多くない。
- 会長 今、多摩市にどういった言葉を母語とした人たちが住んでいる人が多

いから、その方たちの母語の本を積極的に買っているのか。もしくは、それは全然関係なく、システムで韓国語や中国語が使えるようになったから、入れるようになったのか。逆に、システムで使えなければ、他の言語は入れないのか。まずは、前者について、住民との関係でお話しいただきたい。

図書館長

住民との関係では、韓国語や英語を使う方が多いので、その方たちを対象とする言語の本を買っている。ただ、その方たちがどういったものを希望しているとか、そういったところまでの情報の把握まではできていない。それが一つ図書館の課題である。あとは、実際に購入する時の購入方法、マークの作り方というところで課題があって、そこは、今回、韓国語や中国語の絵本は購入して、できるようになったがそこも一つの課題である。引き続き検討が必要である。

委員

希望としては、多摩市の外国の方たちの実態のデータに基づいて、活動を進めた方がいい。今年、多摩市国際交流センターの外国語セミナーの会議に出て、資料をもらい、多摩市の外国人は 2021 年、多摩市の人口 148,479 人のうち、外国人 2,755 人、一番多いのが中国・台湾の人で 1,169 人、韓国・朝鮮の人が 520 人、フィリピンの人が 220 人、増えてきているのがベトナムの人だ。それからネパールの人、アメリカの人、ヨーロッパの人という実態がある。日本語ボランティアをやっているベトナムの人が多く、せっかくだったら、多摩市の実態に即した、活動が望ましいのではないかと。今やっていることも大変だと思うが、さらに欲を言えば、その部分も考えてほしいと思う。ところが多摩市国際交流センターに入っている人というのが 77 人と減っている。図書館が多文化で対応していることができるだけ浸透していけばいいと思う。例えば、多摩市国際交流センターの人と図書館の人の話し合いの場があるのかどうか。図書館から、こういう紹介を入れてくださいと言われて入っていると事務局長は言っていたが、そこでちょっとした話し合いがあれば、この頃、韓国に人は減ってきているとか、増えてきているとか、そんな話し合いはあるのか。

図書館長

この HAND IN HAND に記事を書いていただくようになったのが、平成 30 年くらいだった。その時にヒアリングをした。図書館として、なかなか外国語を使う方に情報提供できず、なにをしたらいいか考えて、多摩市国際交流センターだったら、繋がれるかもしれないということで話を聞かせてもらった。それで、第一段として、掲載してもらった。それまでは、情報提供をあまりしていなかった。これから、電子書籍なんかは使い勝手がいいと思うので、直接、私たちが説明できる場がないかと考えている。そういったところをこれからやっていきたいと思う。

会長 図書館は多文化サービスを展開するために多摩市国際交流センターとコンタクトをとって、相応の情報交換を始めた。その成果のひとつとして、HAND IN HAND がある。一方で、多摩市国際交流センターでネットワークを広げることが主目的と思うので、そこに図書館が関わってきているということは評価できる。さらなる進展を図るために、もっと積極的に実施してほしいといった意見交換をしておきたいがいか

委員 さらにいろいろな方法をとったりして進めて行ってほしい。

会長 委員のご指摘から、こういう図書館と他の機関とのやり取りが見えたので、よかった。

委員 委員がおっしゃったようなことを聞いたかったので、よくわかった。

会長 続いて、基本目標（２）子どもへのサービスの充実である。子どもの読書活動推進計画に基づいた取り組みと自己評価であったが、これについてはどうか。

委員 よんでみよう！というのがわからなかったので、ネットで調べたら、いろいろな本が出てきた。知らない本も何冊かあったが、いいラインナップだと思う。こういうものがネットで調べればわかるが、子どもたちには学校を通して渡っているのだろうし、これが学校図書館とリンクしながら子供たちにつながればいいが、身近にいる小学生を見ていると全然図書館とは無縁のような生活をしていて、そこをどう作り上げていくのか、図書館好きな方は本当に好きだが、行かない方は、１年に１回も行かないのではないか。そういう人たちの引き上げが課題であったと思うが、折に触れて、大事なことだと思った。グリナード永山でやっていたほんともフェスタだと、目につく。商業施設でやるのは目につくので図書館に行かなくてもそういうものに触れられるという取り組みは良かったと思う。

委員 ほんともフェスタは、永山でちょうど通りかかり、目に入り、子どもも展示物をすごく見ていた。その時に電子書籍の説明をしていて、それまではあまり興味がなかったが、そこで説明いただいて、やり方も簡単とうかがって、子どもはタブレットが好きなので、ちょっとやってみようというきっかけになった。あの展示は効果があったのではないか。

図書館長 どうしても本館がある落合側に引っ込んでいる感じがあるので、永山の会場でやると中央図書館の開館に向けてもあまり知られていなかったもので、タブレットで見せたりして、図書館の活動を積極的に広めたいと思った。

委員 よんでみよう！なんです、今、子どもが１年生で学校で週に１回図書館室に行く日があって、必ず、その時に１～２冊借りてくる。それが子ど

もはすごく好きなので、よんでみよう！も学校の図書室の先生が図書だよりでやっているから、それとリンクさせて、クイズパズルを貯めたら、なんかもらえる優待券みたいな、一冊多く借りれるとかしてくれているのにこのよんでみよう！も活用されていたので全員が選ぶとは限らないが、学校の子供たちにも目にはついているのかなと思った。

会長 よんでみよう！の対象はだれか。

図書館長 子ども向けのブックリストです。対象の学年の子供たちに配っているので、各学校の学校図書館司書からも意見を聞いて作っている。活用して、読んだらハンコを押すとか、各学校で取り組んでいる。また、学校でも買えるような本を選んでいる。

会長 それらの本は、学校が学校図書室に入れるのか、それとも図書館が支援するのか。

図書館長 図書館では、図書館用として多めに購入して置いているが、学校でも必要であれば、貸出をしている。

会長 よんでみよう！は、学校が本を選ぶ時も、子どもたちが本を選ぶ時にも有効なツールになっていると理解した。

委員 令和2年度は1・2年生用の改訂を行ったとあるが、何か基準があるのか。選書については、NDCですべてのジャンルを網羅していこうとか、近年問題になっている例えば環境問題とか、そういう視点をもって作っているのか。また、何年前から作っていて、何年毎に更新しているのか。

図書館長 毎年更新しているというものではない。長い期間で使っている。この1・2年生から改訂を始めたところである。令和3年度は次の学年の改訂を始めるところで、順番に改訂を進めているところである。改訂するのも2年がかりで準備している。選び方の基準は、もともと児童書の選書基準があり、それに照らし合わせ、例えば、学校でもすぐに購入しやすいものだったりなど利便性なんかも含めた選書をしている。選書の基準は改めて、お渡ししたい。

委員 1・2年生はジャンル別、絵本とか読み物とか昔ばなしとか知識もあって、改訂されたと思ったが、3・4年生のものは、2,000年ごろので随分古い。多摩市の教育方針として、サステイナブル・デベロップメントに力を10年前からあてている。8年前に市内の小学校で学校図書館司書をやったが、その時に既に環境問題も学校の中でも取り上げている。今度、3・4年生の改訂するのだろうか、今のものをずっと置くのではなく、ジャンル別というのが必要かと思う。

図書館長 今回は、知識の本なども入れ、検討した。

委員 これを見て、買おうという本がほとんど無く、15年前の学校にある感じである。ここ10年、15年でどんどん新しい本が出ているので、工夫

してほしい。

会長 よんでみよう！に関して、まずその有用性が指摘され、是非続けてほしいということ、改訂の頻度はもっと上げるべきではないかということ、1年に1回1学年やっていけば、6年に1回はサイクル回せるはずなので、そのくらいのペースでもおかしくないと感じるし、それ以上頻度があげられるかどうかは別として、是非、内容の更新は考えていただきたいという3つの意見があった。

委員 改訂年月日をネットで調べようと思ったら、見当たらず、改訂年月日も書いてあれば、見る側としてはより良いと思った。いまだったら、子どもSDG'sとか保育園にも入れている。環境問題はテレビでもやっているの、入っていたらいいと思う。

会長 そのような話題やテーマは、次の読書活動に関心を高めるための事業の実施にもつながってくる。普段から行う活動とその時々に合わせてやっていく活動の両方があってもいいと思う。すぐに対応できなくても、比較的、軽微だったら、すぐ出来て、そこでリストも作れる。そういった活動の組み合わせもあってもいいのではないか。ただ、委員からの指摘のとおり、情報の新鮮さという点からも、作成日を記したほうがよい。

会長 最後に、記述のしかたについて指摘しておきたい。5ページ図書館の自己評価の文章で読み解けない部分があった。あとから誰が見ても、こういうことがあってこういう評価をしたんだなとわかるようにしていただきたい。

会長 基本目標（3）の取り組み7の読書活動に関心を高めるための事業の実施について、意見をいただきたい。

会長 最初に、先ほどブックリストの話が出たが、取り組み7の2つ目の項目に企画展示について触れられている。企画展示を全館で実施し、36テーマのブックリストを作成・配布し図書館ホームページに掲載することで、新たな本との出会いの機会を作ったとあり、素晴らしい取り組みだと思う。他方、一昨年くらい前から発言しているが、企画展示した本のリストの過去のものが見られないというのが、自分の探し方が悪いのか見つからない。今やっている展示のリストしかみられない。せつかく作ったのにもったいないので、載せたらどうか。

会長 もう一つ、ビブリオバトルそのものは実施できなかったが、これまでやってきたチャンプ本を展示するなど、類似した企画に変更して実践できた。特にビブリオバトルについては、自己評価にも書いてあるが、大妻女子大学と連携して実施するなど、地域との連携という点でも重要な活動である。無くしてしまうのではなく、一緒にできることを模索したというのはとてもよかったと思う。

- 会長 実施結果の 2 つ目に本の福袋を実施し、206 セット貸し出されたとあるが、何セット作ったのか。あるいは、戻ってきたものをまた貸し出ししたりしたのか。実施結果の概要を教えてください。
- 図書館長 貸出セット数はわかるのだが、どれだけ作ったのかは今、わかりません。
- 会長 売り切れたら、追加して作るのか。
- 図書館長 追加はない。
- 会長 追加されるくらい好評なら、それはそれで評価できるし、売り切れてしまうくらいだったら、それも評価できる。どのように評価できるだろうか。
- 図書館長 作ったセット数もあった方がいいと思う。
- 会長 206 セットも貸し出されているのだから、それはすごいなと思う。
- 委員 福袋は大人向けもあるのか。
- 図書館長 大人向けもある。
- 委員 子ども向けのやつを子どもが興味をもって、一人 1 セットしか借りれないので気になるのが 2 つあったので、すごく迷って借りていた。おみくじ付きでそれもたまらなかったようだ。もう一回借りたいくらいの様子だった。お客さんには好評なのではないか。
- 図書館長 各館で工夫していて、関戸図書館は冬休み読んで欲しいということで、冬休み始まるところで、セットを作ったりした。各館ごとに特徴を活かしてやっている。
- 会長 評価するための指標は難しい。本の福袋は、何セット貸し出されたというのが数字が出てくるのでよくわかる。他方、自己評価に書かれているそれ以外のことは、力を入れたことはわかるが、その結果どのくらいの効果が生まれたのかなかなか把握しづらい。それが推察できる情報もあるとよりわかりやすい。例えば、今回資料でいただいた冊子は、何部作って、どのくらい利用があったのかとか、いろいろな表現の仕方があると思う。
- 委員 高齢者向けお話し会というのは初めて聞いたが、どういう内容でやっているのか。子ども向けはよくわかるのだが、高齢者向けはどういう内容でやっているのか聞きたい。
- 図書館長 福祉館などがある複合施設に入っている図書館があるので、昨年度はコロナでできなかったが、福祉館で昼食会みたいのがあり、そこで大人向けの紙芝居とか大活字本とかオーディオブックという、活字を追うのがつらくなってきた年配の方には、そういった聞いたりとか、大きい字の本など、いろんな本を用意しているので、そういったものを紹介したり、読み聞かせをしたりといった内容でやっている。

- 会長 これは、図書館でもやっているのか。
- 企画運営担当主査 豊ヶ丘図書館と東寺方図書館は福祉館が併設しており、同じ建物内にあるので、その2館で実施している。
- 会長 福祉施設との連携は、場合によっては、図書館でのイベントに拡張ということがあってもいいのではないか。そういう要望が寄せられたと思う。令和2年度はできなかったのこれから検討するとあるが、何か進展があったか。
- 図書館長 引き続き検討中である。子どもたちの読み聞かせも中止したりしているので、読み聞かせたりとかという形ではない方法をしていかないといけないと思っている。例えば、電子書籍とかのタブレットを持って行って、見方を教えたり、いろんな紹介の仕方ができると思っている。
- 会長 本日は、基本目標の（１）（２）（３）について、みなさんと意見交換をした。その中で、いろいろと気づいたことがあるかもしれないので、今日の結果を事務局にまとめていただき、その後みなさんに送付したい。それを基に追加で意見などがあつたら、次回もしくは、別の形での意見提出なのかは事務局と調整し、みなさんに確認いただきたいと思う。
- 会長 ここから、基本目標の（４）（５）について、それぞれどれを取り上げるかを決定したい。20ページを開いていただくと基本目標（４）しらべるを支援、つながる図書館があり、9地域課題解決の支援、10デジタル資料の提供が挙げられている。また、23ページに基本目標（５）弾力的な管理・運営には、11本館の機能強化、12図書館コンピュータシステムの見直しによるサービスの向上、13職員体制の見直し、14ボランティア活動の促進、15事業計画の策定と点検評価、16ICTの活用、17蔵書の適正管理という項目がある。まずは基本目標（４）であるが、事務局としては、どちらをやってほしいという希望はあるか。
- 図書館長 デジタル資料の提供というところでは、地域資料のデジタルアーカイブの公開は今年の1月に始めたところで、今年度公開予定の資料もあるので、そのあと評価していただけるといいかなと思う。地域課題解決の支援は、庁内の各課と連携した企画展示を平成30年度くらいからやっているのちょうどここ数年やっているの、他の展開はないかとか評価していただけるといいと思う。
- 会長 地域資料のデジタルアーカイブは公開されたばかりで、それは来年度にとっておくとして、9番をやってみようということでもいいか。
- －了承－
- 会長 基本目標（５）については、事務局いかがか。
- 図書館長 事務局から特にといいところはないが、この部分は、検討段階が長い状況で、進めていくのに苦労しているところである。どの項目であつ

でも評価いただく対象にはなると思う。

会長 本館機能強化は今、やっているところである。12はホームページを新しく変更したのでそれに対する見直し取り組みについては評価できるかもしれない。

図書館長 平成30年度に今の図書館ホームページに更新しているので、ここで使い勝手などをあげていただければ今後の見直しで活かせると思う。

会長 実現可能性という意味で確認するが、13職員体制の見直しについては協議会でも話題になる。職員体制に対して、ここで意見を述べたいということであれば、これを取り上げることも考えられる。ボランティア活動の促進に関して、評価にあたり提供できる情報はるか。

図書館長 ちょっと停滞しているところがあって、今、子ども向けの読書活動について、読み聞かせ等のボランティアと障がい者サービスのボランティアをやっているが、それ以外のボランティア活動に広げていければいいと思っているが、そこができていない。ここの部分は中央図書館の開館に向けて、基本計画の中にもあるが、もう少し、企画にも関わっていただいたり、他の分野でのボランティア活動も協働でやっていきたいというところで、ボランティアの組織作りとか協働の仕方とかこれから考えていくところであるので、そのあとがいいのか、あるいは、今の活動の課題でこういう風に活動していったらいいのではないかという評価をいただいてもいいかもしれない。

会長 ボランティア活動は、決して軽視すべき、もしくは今は取り上げなくてもいいといった課題ではないが、協議会委員が検討するためには材料が少ないかもしれない。15については昨年度、評価の方法とそれが事業計画にどのようにつながるのかということを話し合ったが、評価をするのは、もう少しあとでもいいかなと思う。16 ICTの活用はICタグを活用したサービスの拡張があると思うが、ICタグについてはどうか。

図書館長 ICタグは、令和2年10月から導入しているが、セルフ貸出機の利用は96%くらいで、蔵書点検などについては効率化が図られている。機器の導入をしたばかりなので、どういうことができたとかは申し上げられないので、評価するのは難しいかもしれない。議論が広がらないと思う。

会長 ICタグの導入により、従来の貸出や蔵書点検の効率化が図られたり、利用者の利便性が高まったということについて議論できなくはない。

会長 最後に17蔵書の適正管理はどうか。いろいろな課題が設定されていて、さまざまな活動が行われているようだが、中央図書館ができるのを見越して、今、計画しているのか。

図書館長 今、検討中であり、蔵書の固定化をどうするか、試行で一部の分野について固定化を試みたりして、令和3年度にそれについて評価して中

央図書館については、どうやってやっていくか検討しているところである。

会長 協議会の意見を入れられないわけではないと思うが、他の課題に比べるとやりにくい、もしくは図書館の方も情報提供しづらいのかと思う。私は、17に興味があるので知りたいと思う。

会長 みなさんはいかがか。

12・13はやりやすいのではないかと、あるいは16は半年分ではあるが評価が出来なくもなさそうである。

委員 苦手な分野ではあるが、自分がわかりそうだなと思ったのはボランティアについてである。

会長 ボランティア活動を今後、どう広げたらいいのかなどをこの場で意見を述べるといったのもいいと思う。

委員 蔵書の固定化が気になる。利用していて、なんで固定化していないのだろうと思っていた。他市では、〇〇図書館の本ってあるのになんで多摩市はないのか。本館で借りて、永山図書館に返すことが多いので、みんな永山図書館に行ってしまう。自分だけが借りているわけではないが、こんなにたくさん永山に運んでいて、どうなっているんだろうと思っていた。ほんとは永山で返したいなと思っても今度、本館に来た時に本館に行けばあるみたいなことにならないのかなと思ってしまう。

図書館長 まさに今の課題である。

委員 絵本も前まで、並べ方が作者だった。でも、作者なんて、いちいち覚えていない。それは、改善されたのでいい。使っていて、なんだろうと思うことがある。

委員 確かに蔵書の固定化についていえば、コロナ感染症についての研究が始まり、たくさん借りた本を同じところに全部返した。ということは、返した図書館にだけコロナの本が固まってしまうと思うと申し訳ないなと思った。特に物語とかでなく、その時代が要求しているジャンルの本であった。新しいものをたくさん借りた。同じところに戻すと、同じところに置かれるのですよねと聞いたら、はいそうですと言われた。そういう部分が気になる。でも、17をすごくやって欲しいと思うわけではない。12か13か17がいいと思う。変わったばかりの12はみなさん体験しているのでいいのではないかと。

図書館長 蔵書の固定化は悩んでおり、今年度中に決めなくてはいけないので、そういう意味では、評価をしていただいてもいいかなと思う。

会長 活動の内容とその成果を、図書館による自己評価と合わせて示すことができるかどうか。また、それに対して、感想とか要望に加え、図書館がしたいことを理解して、そのためにやっていることに対して、私た

ちが発言できるかどうか。私はやってみてもいいと思う。

図書館長

蔵書の固定化は、本の物流も考えなくてはいけない。本を戻さないといけいので、そういう仕組みなんかも含めて、共有してもいいかもしれない。最終的に評価というところに落ち着くかはわからないが。

会長

2人の委員が興味を持っていらっしゃるので、17蔵書の適正管理にしたい。細かい項目がいくつかあるが、それは適宜、協議会にもなじむようなテーマに組み替えてもいいと思う。

会長

議題2、多摩市読書活動振興計画の計画期間の延長について事務局より、説明をお願いします。

図書館長

資料2-2について、説明する。今、事業評価をさせていただいているが、その基となる読書活動振興計画について、計画の期間が令和2年度までの5年間の計画である。令和2年度に期間が終了するというところで、ここで延長を考えている。それについて、案を提案する。資料の1計画期間の延長についてということで、図書館としては延長したいと考えている。その理由としては、(1)今後の中央図書館開館に向けて開館準備を進めている。それと並行して資料の2ページになるが、3計画策定スケジュールとあるが、図書館イベントというところで、東寺方複合施設の中にある図書館だったり、豊ヶ丘複合施設の中にある図書館だったり、建物全体の改修というのも控えている。そういった今後の不確定要素が多くあり、次期の計画策定を中央図書館の開館後にしたいと考えている。

(2)にあるがその次に更新する計画として、第三次多摩市子どもの読書活動推進計画という計画の終了期間が令和5年度末である。今の図書館の計画としては、子どもに対しての読書活動推進計画と多摩市読書活動振興計画の二本立てになっている。それを一本化したいと考えている。

(3)多摩市読書活動振興計画は平成23年に策定しました多摩市立図書館の基本方針・運営方針を踏まえて、5つの運営方針を柱として具体的な取り組みをあげている。現在の達成状況は3ページ以降にまとめてあるが、時間が限られているので、細かく説明できないが、それぞれの項目に関して、実施できているものはかなり多い。3ページの下の方に活動指標というのがあって、もともとこの計画には活動指標がありまして、その指標に対して、実績が追いついていない。もう少し、引き続き取り組みを進めていきたいというところがある。以上の様な理由から、延長したいと考える。次の計画の策定の方向性だが、1ページにもどって2(1)であるが、今、2つの計画の二本立てで、事業計画を策定して、進行管理はそれぞれの会議を設置してやっている。こちらを一体化して、推進していく計画として策定したいと考えている。(2)今後の次の計画に関しては、多摩市子どもの読書活動推進計画の内容を取り込んだ上で、

中央図書館開館等の環境の変化があると思うので、それを踏まえた計画として策定をしたい。(3) 計画の策定にあたっては、これまでの計画の実施状況から見えてきた課題と開館後の状況を踏まえ策定をしていきたいと考えていて、令和4年度から準備を進め、令和6年度に計画を策定して開始を目指すと考えている。2 ページ目が計画の策定スケジュールだが、令和5年度をもって子どもの読書活動推進計画は終了になるので、その次のところから、2つ合わせた計画ということで策定をしたい。4 今後のスケジュールだが、今日、意見など協議をいただき、8月の教育委員会で協議決定に至ればいいと思う。今年の10月には今やっている今年度の事業評価について決定されると思う。そういったままでの計画の内容を検討しながら、来年の4月以降から準備を進めていきたい。このような感じで、延長を考えているがここで意見をいただき、教育委員会の方で最終決定があるので、そのように調整したい。

会長

この案に関して、みなさんの意見はあるか。

会長

私から3つ確認したい。1つ目は、計画は多摩市立図書館基本方針を踏まえ作成されているが、その基本方針は変えずに同じような手法で作っていくことを考えているのか。2つ目は子どもの読書活動推進計画と一体化するのは悪くないが、一体化することによってどのような利点があるのか。3つ目が中央図書館の開館準備を控えつつ、この計画を立てるのは大変なのではないかなと思ったがいかがか。

図書館長

まず、1点目だが、今後も基本方針は変えないのかということだが、この平成23年に策定した基本方針・運営方針は図書館として目標とする方針なので、変えない。2点目の子どもの計画と一緒にすることでのメリットは、今の読書活動振興計画も子どもの活動に関するところは子どもの計画のところでやるかたちになっていて、子どもの読書活動振興計画のボリュームが大きく、細かい計画になっている、普段の進行管理も難しい、関連性もあるので一体化したい。もう一つは進行管理だったり、評価をしていくにあたり、読書活動振興計画ということで子どもの計画も基本目標(2)で評価をしていただいているが、一方で子どもの読書活動振興計画の方では、また会議体があって、そこでも評価をして進行管理をしているので、2つの会議体をやっていくというのは効率面をみるとどうなのかなと思っているので一本化したい。3点目の中央図書館の開館を控えているのに大変じゃないかというところは、正直に申し上げると、職員は大変だと思う。当初、案では1年遅れて令和7年度から策定して計画期間開始と考えたが、子どもの読書活動振興計画が令和5年度に終了するというのを踏まえると今から準備していけばできることなので令和6年度に向けての策定という方が計画の考え方としてはいい

いのではないかという教育委員会内部での意見があった。中央図書館が開館して状況を把握してから計画を策定した方がいいのではないかというご意見が協議会のほうからあれば、また教育委員会内で協議したいと思う。

会長 図書館は、2つのものを進行管理するのは大変であろうし、一緒にできるのであればその方がいいだろう。評価する時も同じことを何回もやるのはどうかと思うので、延長の提案の方向は適切だと思う。みなさんもよろしいか。

ー了承ー

会長 議題は終了した。

次に報告事項が2つある。まず、報告1中央図書館建設工事の進捗状況について、説明をお願いする。

中央図書館
整備課長 口頭で説明する。前回の協議会でも伐採起工式を行ったこととこれから工事を行っていくと説明した。その後、順調に工事は進んでいる。伐採も終わり、工事に入っている。建物を建てる前に一定の平地を作る必要があり、高低差のある急斜面のところに建てるので、掘削をして、土を搬出しているところである。最近、雨が多く、熱海市で発生した土砂災害のようなことも懸念しており、市役所の工事所管課とも調整をしながら事故のないように注意をして、安全第一で進めている。現状は順調に進んでいる。今後、工事の仮囲いに図書館ができることをPRするためにこれまで多摩市立図書館ができて48年経っているが、いままでのベストセラーとかへなそうるの展示とかフォトスポット的なものを設けていくような準備をしている。8月にかけて、掲示をしていきたい。完成したら資料をもって報告したいと思う。

会長 委員のみなさんからなにかあるか。

会長 次に市民の方が参加するような活動はなにを予定しているのか。

中央図書館
整備課長 7月5日号のたま広報と7月上旬の教育委員会だよりで子どもたちや保護者にはお知らせしているが、7月31日と8月1日に樹木伐採起工式で切った木を使って、木工イベント「木のおもちゃづくり」を開催する予定である。昨日、緊急事態宣言が発令され、実施するかどうかを市の内部で検討中である。市民の方々には、お知らせをして、既に申込みいただいているところで定員になっている。実施するかどうか検討中であるので、実施したもしくは延期したという報告になるかもしれないが、いずれにせよ、後日、報告したいと思っている。

会長 では、報告2多摩市立図書館ニュースについて説明をお願いする。

図書館長 報告2については、先ほど説明させていただいたので、後ほど、ご覧いただければと思う。ピンクの方が1年生から3年生で、中央図書館の

工事が始まりましたということと図書館の使い方などを記事として掲載している。見開きのところは図書館にはいろいろな本があるんだよというところの紹介をしている。話題にでた、大活字本だったり、障害がある方でも使える LL ブックだったり、電子書籍、マルチメディアデジターなどを載せている。水色の方は、4年生から6年生で、こちらは高学年向けで、多読だったり、図書除菌機ってどういうものかなどを載せている。電子書籍やデジタルアーカイブも掲載をして、調べ学習などで使ってほしいと思っている。

もう1点、多摩市の図書館の概要版を配布していて、毎年9月ごろに統計資料として、A4版の冊子をみなさんに配布しているが、まず、速報ということで概要版、数字で見る一年ということで作成をした。簡単に図書館の活動が分かるように作っている。

最後に緊急事態宣言が発令されるというところでの図書館の開館についてだが、前回の緊急事態宣言の期間は、感染予防対策をして、通常開館した。人の流れを抑制するとか長時間の利用をさけるというところで、閲覧室とか学習室、活動室などの諸室に関しては、利用は中止していた。7月12日からの緊急事態宣言の期間に関しては、通常開館というところで、諸室の利用に関しては、これから夏休みを迎えるという中で、学びの場の確保、市民活動の活動の場の確保をしたいという考えもあり、感染予防対策をしっかりとりながら、利用ができるようなかたちにしたい。ただ、定例的にやっているお話し会に関しては、8月末までは中止ということにする。また、夏の期間なので、ちょっとしたイベントを各館で実施をしているがそれは感染予防対策をしっかりとりながら、少人数で、ちょっとした工作だとかお話し会ではない形で行うもの、展示として行うものなどは取り組んでいく予定である。図書館の対応は以上である。

会長

柔軟に対応していただけるといいと思う。

では、議事はすべて終了した。これで第2回の定例会を終了する。